

国境を越えた、人との繋がりを

-埼玉県・クイーンズランド州スカラシッププログラムを通して-

小田 菜月

・はじめに

この度、スカラシッププログラムを通し、オーストラリアクイーンズランド州に派遣していただきました、小田菜月です。まずは、このような機会を与えてくださったこと、県国際課のみなさんをはじめ関係者の方々、両親、そして一緒に学び、ともに日々を過ごした仲間がこの場をお借りして感謝申し上げます。さて、私を含む三人は、埼玉県親善大使として Yeppoon State High school に二週間行ってまいりました。そこで学んだことは私にとってかけがえの無い思い出となりました。その貴重な経験を少しでもこれを読んでくださる皆さんにお伝えできればと思います。

・Yeppoon について

上記したように、私たちは Yeppoon State High School で二週間通常授業に参加し、英語力の向上を図ってまいりました。この Yeppoon はブリスベン空港から飛行機を乗り継ぎ、ロックハンプトン空港まで行った後、さらに車で 40 分ほど行ったところにある街です。海に接しており、自然も豊かでのんびりとした雰囲気のある街でした。この自然豊かな土地で私たちはサーフィンやセーリングなど、日本にはなかなかできない体験をさせていただきました。(右の写真)サーフィンやセーリングはもちろんですが、レクチャーしてくれる先生、また、一緒に体験をした他の国からのインターナショナルスチューデントとの会話が英語でしたので、初めての体験を英語を使いながら体験したことはとても記憶に新しいです。



・埼玉県親善大使としての活動

このプログラムに参加する前に私は、オーストラリアの方々を日本のことをあまり知らないであろうと思い、資料や発表の準備をしていきました。しかし、現地に行ってみると驚いたことに、現地の生徒が日本語を学んでいる、など日本の文化について非常に詳しくたのです。現地でかなり焦りました。事前にプレゼンテーションなどをするようには求められていなかったのですが、昨年先輩方は発表したということでしたので万が一に備えて現地で練り直したことをよく覚えています。幸いにも一緒に行った仲間の二人もプレゼンテーションの準備をしてくれていたのも、とてもよいものができました。私たちが特に気にした点は、いかに日本、また埼玉県の魅力を発表する相手に楽しんで理解いただくかということでした。と、言いますのもオーストラリアの高校は日本でいう中学生から高校生が通っていたからです。また、地域の小学校や幼稚園、他の高校も回ったのでその前日にはそれぞれの年代に合わせた発表を考えていきました。オーストラリアは良い意味で予定がきちんと決まっているわけではなかったため、その場で軽いプレゼンテーション

などを頼まれることもあり、準備をしていった甲斐もあり、大成功に終わりました。

主にアピールした点としては、都市部と自然の融合、埼玉県の伝統文化、そして国際的な行事と言えるラグビーW杯やオリンピックについてです。特に小学生はラグビーに、高校生は、埼玉県の和紙文化に興味を示してくれました。そこで、埼玉県国際課の方に用意していただいたW杯のピンバッジ、和紙の成分が配合された折り紙などをプレゼントすることで、より埼玉県に興味を持ってもらえたと思っています。終わりには必ずと言っていいほど、「日本に行きたい。埼玉県に行きたい。」と皆、口を揃えて言ってくれて、少しでも自分の力で埼玉県の良さを伝えられたのかと思うととても嬉しく思いました。

・留学を通じて学んだこと

本論の主題にしました通り、私が留学で一番大切にしたことは人との繋がりで、学校に行く、家に帰る、買い物に行く、寝る。この日常のサイクルの中にも出会いは無数に転がっていました。留学において、単なる旅行と違うところは現地で出逢った方と密に過ごせる時間が長いということだと私は考えています。私は渡航前に約200枚ほど自分の名刺を作っていました。クラスメイト、先生、買い物で列が前後になったおばちゃん…色々な人と様々な場面で会う中で、全てを学びに変えようと私は一生懸命話しました。なんとか話そうとすると、相手も耳を傾けてくれます。帰国する頃には名刺は残り13枚になっていました。留学最終日、お見送りをしてくれたホストファミリーの言葉は一生忘れません。(下は家族の集合写真)

「違う両親から生まれた私たちの、娘。いつでも我が家に帰ってきてね。元気でね。」

国籍なんて関係のない、人の温かさを知ることできた旅でした。今も、これからもホストファミリー、友達、先生方との繋がりを大切にしていきたいと思っています。



・次期奨学生へ

留学での二週間は始まってしまうと本当にあつというまの二週間でした。予定がぎっしり詰まっており、とても忙しかつたですが、常に新しい出会いにあふれていました。人との出会いももちろんのこと、言語、考え方、異文化など、その出会い、一つ一つをどう活かし、どう繋げていくのか、ということこそが短期留学での醍醐味であると私は考えます。迷わず、全てを吸収してきてください。偉そうなことを言える立場では無いこと、十分に承知しております。しかし、私は最初から全て120%吸収する気持ちでこの留学に臨みました。そして、その経験は私の人生の財産になりました。そして、なにより最高の思い出となりました。楽しんできてください。